動詞「のばす」の多義構造

―日本語教育の観点から―

李　　澤　熊

要　　旨

本稿では動詞「のばす」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにした。具体的には、多義語の分析において明らかにしなければならないこと、即ち、多義語分析の４つの課題のうち、「複数の意味の相互関係の明示」「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」という２つの課題について詳しく検討した。

まず、「のばす」について11の多義的別義を認定することができた。

次に、「複数の意味の相互関係の明示」つまり、別義間の関連性については、比喩の観点から考察を行い、別義間の関連性を明らかにすることができた。

また、「複数の意味すべてを統括するモデル･枠組みの解明」については、「統合モデル（ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統合することができるモデル）」を用いて、「のばす」の多義構造を提示した。

さらに、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について検討した。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「非共起例（誤用例）」も提示し、その理由・原因について分析した。

キーワード

多義語、多義語分析の課題、比喩、フレーム、非共起例

目　　次

１．はじめに

２.「のばす」の多義構造
２．１　「のばす」の意味分析
２．１．１　別義（１）
２．１．２　別義（２）
２．１．３　別義（３）
２．１．４　別義（４）
２．１．５　別義（５）
２．１．６　別義（６）
２．１．７　別義（７）
２．１．８　別義（８）
２．１．９　別義（９）
２．１．10　別義（10）
２．１．11　別義（11）
２．２　「のばす」の多義構造
２．２．１　複数の意味の相互関係の明示
２．２．２　複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明
３．日本語教育の観点からの考察－コロケーションの提示と非共起例分析－
３．１　別義（１）
３．２　別義（２）
３．３　別義（３）
３．４　別義（４）
３．５　別義（５）
３．６　別義（６）
３．７　別義（７）
３．８　別義（８）
３．９　別義（９）
３．10　別義（10）
３．11　別義（11）
４．まとめ

1．はじめに

動詞「のばす」(注1) は基本動詞として扱われ、日本語教育において重要な学習項目の１つとなっている。しかし、「のばす」は多様な意味を担っている多義語 (注2) であるため、その学習指導というのは必ずしも容易ではない。

さて、現在刊行されている辞典・辞書類を調べてみると、「のばす」は多義語として扱われているが、それらの意味を選んで掲げる基準は必ずしも明らかではない。また、当然のことながらそれぞれの意味の相互関係も不明確である。

そこで、本稿ではまず「のばす」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにする。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「非共起例（誤用例）」も提示し、その理由・原因について検討する。

さて、籾山（2001：33）は、「多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められるのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実態を明らかにすることが課題となる」とし、多義語分析の課題として「複数の意味の相互関係の明示」を提案している (注3)。また、「メタファー、シネクドキー、メトニミーという３種の比喩が、複数の意味の関連づけに重要な役割を果たすと考えている」と述べている。本稿では、「のばす」の複数の意味の関連性を比喩の観点から考察する。なお、この３種の比喩の定義・性質・種類をめぐっては諸説あるが、本稿では籾山・深田（2003：76-87）、籾山（2010）に従い、以下のように示す。

メタファー（隠喩）：２つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。「類似性に基づく」というのは、２つの事物・概念に類似性が内在しているというよりも、人間が２つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると考えたほうが適切である。

まず、「外見の類似性に基づくもの」として、「トンボ」という語があげられる。「トンボ」という語には、〈グラウンド整備の道具（の一種）〉という意味もあるが、この意味は、この道具が、昆虫の「トンボ」（「トンボ」の本来の意味）の形に似ていることに基づくものである。つまり、外見の類似性に基づくメタファーと考えられるものである。

次に、「抽象的な類似性に基づくもの」として「故障」という語があげられる。「故障」とは本来〈機械などが正常に機能しなくなること〉であるが、「肩の故障で、今シーズンを棒に振ってしまった」というように、「人間」に関して使われる場合もある。この場合の「故障」は〈スポーツ選手などの体（の一部）が正常に機能しなくなること〉である。この新しい意味は、〈正常な機能が果たせなくなること〉という本来の意味との共通点（つまり、抽象的な類似性）に基づくメタファーと考えられるものである。

シネクドキー（提喩）：より一般的な意味をもつ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味をもつ形式を用いて、より一般的な意味を表す比喩。なお、より一般的な意味とは、相対的に外延が大きい（指示範囲が広い）ということであり、より特殊な意味とは、外延が小さい（指示範囲が狭い）ということである。

例えば、「花見に行く」における「花」は〈サクラ（の花）〉という意味を表しているが、これは一般的に「花」が表す〈植物が咲かせる美しく人目を引くもの〉の一種であると考えられる。つまり、より一般的な〈植物が咲かせる美しく人目を引くもの〉という意味が、より特殊な〈サクラ（の花）〉という意味として用いられているということである。

また、これとは逆の例として、「下駄箱」における「下駄」があげられる。「下駄箱」における「下駄」は〈履物一般〉を表わすと考えられるが、一般的に〈下駄〉は〈履物一般〉の一種であると考えられる。つまり、より特殊な〈下駄〉という意味が、より一般的な〈履物一般〉という意味として用いられているということである。

メトニミー（換喩）：２つの事物の外界における隣接性、さらに広く２つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念

を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩。

まず、「空間における隣接」に基づくものとして「黒板を消す」という表現があげられる。「黒板を消す」という場合、〈黒板〉と〈黒板に書かれた文字〉が隣接していることに基づいて、本来〈黒板〉を表す「黒板」という形式を、〈黒板〉と隣接している〈黒板に書かれた文字〉を表すのに用いる。

次に、「時間上の隣接性」に基づくものとして「頭を抱える」という表現があげられる。「この問題を前にして、頭を抱えてしまった」における「頭を抱える」は、〈困り果てる〉といった意味である。「頭を抱える」という表現でこのような意味を表せるのは、私たちは、困り果てるという精神状態のときに、頭を抱えるという動作をする場合があるからである。つまり、〈困り果てる〉という精神状態と〈頭を抱える〉という動作が同時に生じることに基づき、本来は動作を表す「頭を抱える」という表現で、〈困り果てる〉という意味も表していることになる。

また、「原因と結果の関係」に基づくものとして、「目に見えて」という表現があげられる。「A さんは目に見えて上達した」における「目に見えて」という表現は、本来は〈視覚で捉えられる〉ことを表すが、ここでは〈はっきりと分かるほど〉という意味である。「目に見えて」がこのような意味を表せるのは、視覚で捉えられたのであれば、はっきりと分かると考えられるからである。つまり、〈視覚で捉えられる〉ことが原因であり、〈はっきりと分かる〉ことが結果であるという関係にあり、「目に見えて」は、本来は原因を表すが、メトニミーによって結果を表していることになる。

さらに、「手段と目的の関係 (注4)」に基づくもとして、「目をつぶる」という表現があげられる。「目をつぶる」の場合、字義どおりの動作の意味と「今度だけは目をつぶってやろう」などにおけるおよそ〈見なかったことにする〉という慣用的意味がある。この場合、字義どおりの動作と〈見なかったことにする〉ということは、手段と目的の関係にあると考えられる。つまり、〈目をつぶる〉という動作を手段として、〈(対象を) 見えないようにする／(対象を) 見なかったことにする〉という目的を果たすと

いうことである。

さらに、籾山（2001, 近刊）は、「多義語の複数の意味の相互関係を明示することに加えて、個々の意味に共通する意味（スキーマ的意味）を抽出すること、個々の意味を構成要素として含むフレームを明示すること、多義構造全体における個々の意味の位置付けを示すこと等が課題となる」とし、「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」という課題を提示している。なお、籾山（近刊）はこの課題の解決を目指したものとして、「放射状ネットワークモデル」(注5)、「スキーマティック・ネットワークモデル」(注6)、「フレームに基づくモデル」(注7) を統合したモデルを提案しており、「この統合モデルは、放射状ネットワークモデル、スキーマティック・ネットワークモデル、フレームに基づくモデルを統合したものであるから、３つのモデルの優れた点はそのまま継承し、さらにこれらを統合することによって、ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統合することができるモデルである」と述べている。本稿では、この統合モデルを援用して分析を行う。

さて、本稿では「のばす」の意味を明らかにする前提として、フレームに基づく考察が有効であると考え、以下では、その概念について簡単に概観する。

フレーム（frame）とは、もともと人工知能などの分野で用いられていた用語であるが、Fillmore（1977a, 1977b, 1982, 1985）によって初めて意味論に取り入れられた概念である。なお、Fillmore（1982：111）はフレームについて次のように定義している。

> By the term ‘frame’ I have in mind any ststem of concepts related in such a way that to understand any one of them you have to understand the whole structure in which it fits ;

つまり、フレームとは、ある言語表現が表す概念を理解するためには、それが適合する構造全体を理解する必要があるというような形で関連づ

けられた概念体系のことである。例えば、名詞 land と ground は共に〈地表面（the dry surface of the earth）〉という同一のものを指す場合があるが、喚起するフレームが異なる。land の場合は、海（sea）をそのフレームに含み（つまり、「海（sea）に対する陸（land）」というフレームの中で理解され）、ground の場合は、大気（air）をそのフレームに含む（つまり、「大気（air）に対する地上（ground）」というフレームの中で理解される）。

このように、フレームは語の意味や句・文・談話の意味構築に重要な役割を果たす。なお、認知言語学において、Langacker が「認知領域（cognitive domain）」を、Lakoff が「理想化認知モデル（idealized cognitive model）」を、「フレーム」と類似した意味で用いている（野村（2013：317））。

また、籾山（2017：４）は Fillmore（1977a, 1977b, 1982, 1985, 2003）, Evans and Green（2006）, Fillmore and Baker（2007）, 松本（2003）, 野村（2013）など、「フレーム」に関する諸研究を詳細に検討し、次のように定義している（注８）。

> フレームは百科事典的意味観に基づくものであり、語（等の言語表現）の意味の基盤となる背景的知識である。その背景的知識は、経験がスキーマ化･理想化されたものであるとともに、構造化されており、長期記憶に蓄えられている。さらに、ある語（等の言語表現）があるフレームを喚起し、そのフレームのある構成要素あるいは要素間の関係を焦点化する。

本稿では、「のばす」の意味分析において、このようなフレームに基づく考察が有効である場合があることを主張する。

２．「のばす」の多義構造

本稿では、「のばす」について11の多義的別義を認め、考察を行う。

２．１　「のばす」の意味分析

２．１．１　別義（１）：〈人が〉〈あるものを〉〈引っ張ったり継ぎ足したりして〉〈長くする〉

（１）　ゴムを両手で引っ張って思い切り伸ばす。
（２）　釣り竿を伸ばす時の注意点を教えてください。
（３）　降りるときは、腰からロープをゆっくり伸ばしてください。
（４）　最近の家電は、電源コードを伸ばして使えるものが多い。
（５）　昔の携帯電話はアンテナを伸ばして電波を受信していたそうだ。

以上の例から分かるように、別義（１）は、ゴムやスプリングなどを引っ張ったり、釣り竿などを継ぎ足したり、あるいは、巻き取った紐などを繰り出したりして、（その長さを）長くするということを表す。なお、本稿では別義（１）をプロトタイプ的意味（意味拡張の起点）として考える[注9]。

２．１．２　別義（２）：〈人が〉〈曲がったり縮んだりしていた〉〈もの・身体部分を〉〈まっすぐにする〉

（６）　ワイヤをまっすぐ伸ばす。
（７）　目じりのシワを伸ばす。
（８）　曲がった釘を伸ばす方法を教えてください。
（９）　寝起きに大きく体を伸ばすと、とても気持ちが良い。
（10）　膝が痛くてまっすぐ伸ばせない。

別義（１）は「あるものを引っ張ったり継ぎ足したりして、長くする」ということを表すが、別義（２）は「曲がったり縮んだりしていたものや身体部分に何らかの力を加えてまっすぐにする」ということを表す。例えば、例（10）は、「膝」を長くするということではなく、（痛みで）膝をまっすぐにできないということを表す。

2．1．3　別義（3）:〈人が〉〈身体部分・道具を〉〈まっすぐにし〉〈ある対象に近づける〉

(11)　桜の花に手を伸ばしてポーズをとる。
(12)　青菜の漬物に箸を伸ばす。
(13)　彼はそっと私の頬に手を伸ばして涙を拭いてくれた。
(14)　今日は、消防車のはしごをビルの屋上まで何分で伸ばせるか実験します。
(15)　彼女はデートのとき、いつも「一口ちょうだい」と言いながら箸を伸ばしてくる。

別義（2）は「曲がったり縮んだりしていたものや身体部分に何らかの力を加えてまっすぐにする」ということを表しているが、別義（3）はさらに進んで「（身体部分や道具をまっすぐにすることによって）手などの身体部分や道具の先端があるものに届くようにする」ということを表している。

2．1．4　別義（4）:〈人が〉〈厚みのあるものを〉〈薄く広げる〉

(16)　麺棒でパン生地を楕円形に伸ばす。
(17)　画用紙に絵の具を伸ばす。
(18)　この棒は粘土を伸ばすのに使います。
(19)　保湿クリームは手のひらで伸ばしてください。
(20)　麺棒で鶏胸肉を叩いて、薄く伸ばす。

別義（1）は「あるものを引っ張ったり継ぎ足したりして、長くする」ということを表すが、別義（4）は「厚みのあるものを薄く広がるようにする」ということを表す。一般的に、パン生地など、厚みのあるものを薄く広がるようにするためには、前後左右の方向に引っ張るなどして長くす

る必要があると考えられる。なお、「糊（のり）を水でのばす」のように、例によっては「濃度をうすめる」というような意味で用いられる場合もある。

2．1．5　別義（5）：〈人が〉〈身体部分・植物（の一部）を〉〈成長に任せて〉〈長くしたり高くしたりする〉

(21)　最近、爪を伸ばす男性が増えているらしい。
(22)　玉ねぎの根を早く伸ばす方法ってありますか？
(23)　あの俳優は役作りのために無精ひげを伸ばしている。
(24)　20年以上一度も髪を切らずに、伸ばし続けている友人がいます。
(25)　今のところ、大人の身長を伸ばす方法はないと言われました。

別義（5）は、別義（1）と異なり、問題となる対象物（毛や爪などの身体部分、植物）に対して、引っ張ったり継ぎ足したりするというわけではなく、「成長させる」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物（の長さを）長くする」という点では共通している。なお、「去年、鉢替えした観葉植物が順調に茎を伸ばしている」のように、例によっては植物が主語になっている場合もあるが、いわゆる「擬人化」という表現法であると考えられる。

2．1．6　別義（6）：〈人や組織が〉〈能力・業績・記録などを〉〈高める・向上させる〉

(26)　この車種は北中米を中心に販売台数を伸ばしているらしい。
(27)　次の五輪に向けて、徐々にタイムを伸ばしていこう。
(28)　景気回復のためには、個人消費を伸ばすことが必要である。
(29)　政府は安定税収を伸ばすために、またも消費税の増税に踏み切った。

(30)　お金をかけなくても子供の成績を伸ばす方法はいくらでもある。

別義（5）は「毛や爪などの身体部分、植物（具体物）を成長させる」ということを表すが、別義（6）は「能力・業績・勢力（抽象物）などを高める・向上させる」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物（の規模）を大きくする」という点では共通している。

2．1．7　別義（7）:〈人や組織が〉〈道路・路線などの距離を〉〈長くする〉

(31)　今後も高速道路を伸ばしていく計画である。
(32)　北部地方まで鉄道を伸ばすためには、莫大な予算が必要である。
(33)　今のところ、国は札幌まで新幹線を伸ばす計画だということです。
(34)　高速道路の料金は、新しく高速道路を延ばすための工事費などに使われるそうだ。
(35)　西日本鉄道は、これ以上路線を伸ばすことは困難であるという見解を示した。

別義（7）は、別義（1）と異なり、問題となる対象物（道路や路線など）に対して、直接力を加えて、引っ張ったり継ぎ足したりするというわけではなく、「工事などを行い、道路・路線などの距離を長くする」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物に何らかの力を加えて（その長さを）長くする」という点では共通している。

2．1．8　別義（8）:〈人や組織が〉〈時間・期間などを〉〈長くする〉

(36)　最近、定年を延ばす企業が増えている。
(37)　大学生になって、門限を11時まで延ばしてもらった。

(38)　これからの時代は、単に寿命を延ばすだけではなく健康寿命を延ばすことが求められる。
(39)　メーカーによっては、追加料金で保証期間を延ばしてもらうこともできる。
(40)　先日の役員会で、理事長の任期を最長10年まで延ばすことが承認された。

別義（1）は「ゴムやスプリング、紐など（具体物）を長くする」ということを表すが、別義（8）は「時間や期間など（抽象物）を長くする」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物を長くする」という点では共通している。なお、別義（8）の漢字表記であるが、「時間の延長」を表す場合は「延」を用いることが多い。

2．1．9　別義（9）:〈人や組織が〉〈時間・日時などを〉〈遅らせる〉

(41)　野菜の出荷時期を延ばす。
(42)　次の審議会まで結論を延ばすこととなった。
(43)　管制塔は、濃霧のため飛行機の出発時間を2時間ほど延ばした。
(44)　与党は臨時国会の開会を意図的に延ばしている。
(45)　彼は仕事を理由に結婚を延ばそうとしている。

別義（8）は「時間や期間などを長くする」ということを表すが、別義（9）は「時間や日時などを遅らせる」ということを表す。一般的に、ある出来事の開始までの時間を長くする（延長する）と、必然的に（その開始時間が）遅くなると考えられる。なお、別義（9）の漢字表記であるが、「時間の延期」を表す場合は「延」を用いる場合が多い。

2．1．10　別義（10）:〈人が〉〈相手を殴るなどして〉〈動けなくする〉

(46)　相手を一発で伸ばした。
(47)　対戦相手の強烈なパンチで完全に伸ばされてしまった。
(48)　元ボクサーに一発で伸ばされてしまった。
(49)　ひとりで３人の男を一瞬で伸ばした。
(50)　試合開始早々、ドロップキックを食らって伸ばされてしまった。

別義(10)は、別義(１)と異なり、のばす対象となるのは「人間」である。また、相手に対して、引っ張ったり継ぎ足したりするというわけではなく、殴るなどして「動けなくする」ということを表す。一般的に、相手を殴り倒し動けなくすると、体がぐったりして長くのびた状態になる(あるいは、のびた状態のように見える）場合が多いと考えられる。つまり、両者の間には「ある対象物に何らかの力を加えて、長くなった状態にする」という類似性が認められる。

２．１．11　別義（11)：〈(主に声楽・音響で）人が〉〈音・声を〉〈長くする〉

(51)　同じ音程で音を伸ばす。
(52)　拗音を伸ばして発音してください。
(53)　カラオケでいつも彼は、音を伸ばすのが多い曲を選ぶ。
(54)　語尾を伸ばして話す若者が増えた。
(55)　のど自慢に出るために、高音を伸ばすトレーニングをしています。

別義（１）は「ゴムやスプリング、紐など（具体物）を長くする」ということを表すが、別義（11）は「音や声（抽象物）を長くする」ということを表す。ただし、いずれも「ある対象物を長くする」という点では共通している。

２．２　「のばす」の多義構造

本稿では「のばす」について、以下のように11の多義的別義を認め、分析を行った。

別義（１）:〈人が〉〈あるものを〉〈引っ張ったり継ぎ足したりして〉〈長くする〉
別義（２）:〈人が〉〈曲がったり縮んだりしていた〉〈もの･身体部分を〉〈まっすぐにする〉
別義（３）:〈人が〉〈身体部分・道具を〉〈まっすぐにし〉〈ある対象に近づける〉
別義（４）:〈人が〉〈厚みのあるものを〉〈薄く広げる〉
別義（５）:〈人が〉〈身体部分・植物（の一部）を〉〈成長に任せて〉〈長くしたり高くしたりする〉
別義（６）:〈人や組織が〉〈能力･業績･記録などを〉〈高める･向上させる〉
別義（７）:〈人や組織が〉〈道路・路線などの距離を〉〈長くする〉
別義（８）:〈人や組織が〉〈時間・期間などを〉〈長くする〉
別義（９）:〈人や組織が〉〈時間・日時などを〉〈遅らせる〉
別義（10）:〈人が〉〈相手を殴るなどして〉〈動けなくする〉
別義（11）:〈（主に声楽・音響で）人が〉〈音・声を〉〈長くする〉

本節では、籾山（2001）が提案している４つの多義語分析の課題のうち、「複数の意味の相互関係の明示」、「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」という２つの課題について検討する 。

２．２．１　複数の意味の相互関係の明示

本節では、「のばす」の複数の意味の相関関係の明示という課題について、「メタファー、メトニミー、シネクドキー」という３種の比喩を用いて考察する 。

上でも述べたように、本稿では別義（１）を「のばす」の「プロトタイ

プ的意味（意味拡張の起点）」として考える。

さて、別義（1）と別義（2）は、時間的に隣接して（同時に）生じるという関係にあると考えられることから、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。というのは、（例えば）一般的にゴムや紐などを引っ張るなどして長くすると、それと同時にまっすぐになる場合が多いと考えられるからである。逆に、曲がった釘や背筋に何らかの力を加えてまっすぐにすると、それと同時に長くなる（長くなったように見える）場合が多いと考えられるということである。

別義（3）は別義（2）と手段と目的の関係にあるととらえられ、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。つまり、別義（2）の「身体部分や道具をまっすぐにする」ということは、別義（3）の「手などの身体部分や道具の先端が、あるものに届くようにする」ための手段ということになる。

別義（4）は、別義（1）と手段と目的の関係にあるととらえられ、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。というのは、一般的に、パン生地など、厚みのあるものを薄く広がるようにするためには、前後左右の方向に引っ張るなどして長くする必要があると考えられるからである。なお、別義（1）と別義（2）（3）（4）はメトニミーの関係にあり、これらの意味は「ものの拡張（フレーム①）」というフレーム内に位置付けることができる。まず、「あるものを引っ張って長くする」というところに注目する場合は別義（1）となり、「（長くすると同時に）まっすぐにする」というところに注目する場合は別義（2）となる。また、「（あるものを長くして）その先端をある場所に届くようにする」というところに注目する場合は別義（3）となり、「（厚みのあるものを前後左右の方向に引っ張ったりして長くし）薄く広げる」というところに注目する場合は別義（4）となる。

別義（5）は、別義（1）からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。つまり、両者からは「ある対象物（の長さを）長くする」という類似点を導き出すことができるということである。

別義（6）は、別義（5）から抽象的な類似性に基づくメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。つまり、両者からは「ある対象物（の規模）を大きくする」という類似点を導き出すことができるということである。なお、別義（5）と別義（6）からは、下記のスキーマを抽出することができる（スキーマ①）。

スキーマ①：〈あるもの（の規模）を大きくする〉

別義（7）は、別義（1）からメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。というのは、両者からは「ある対象物に何らかの力を加えて（その長さを）長くする」という類似点を導き出すことができるということである。なお、別義（1）、別義（5）、別義（7）からは、下記のスキーマを抽出することができる（スキーマ②）。

スキーマ②：〈ある具体物（の長さ）を長くする〉

別義（8）は別義（1）と抽象的な類似性に基づくメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。つまり、両者からは「ある対象物を長くする」という類似点を導き出すことができる。

別義（9）と別義（8）は原因と結果の関係にあるととらえられ、メトニミーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。というのは、一般的にある出来事の開始までの時間を長くする（延長する）と、必然的に（その開始時間が）遅くなると考えられるからである。なお、これらの意味は「時間の拡張（フレーム②）」というフレーム内に位置付けることができる。つまり、「（時間の）延長」というところに注目する場合は別義（8）となり、「（時間を延長した結果）延期」というところに注目する場合は別義（9）となる。

別義（10）は、別義（1）から抽象的な類似性に基づくメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。というのは、一般的に相手を

殴り倒し動けなくすると、体がぐったりして長くなった状態になる（あるいは、長くなったように見える）場合が多いと考えられる。つまり、両者の間には「ある対象物に何らかの力を加えて、長くなった状態にする」という類似性が認められる。

別義（11）は、別義（１）から抽象的な類似性に基づくメタファーによって意味拡張が成り立っていると考えられる。つまり、両者は「ある対象物に何らかの力が加えて、（その長さを）長くする」という点では共通している。というのは、一般的に音や声を力強く響かせると、遠くまで届く（聞こえる距離が長くなる）と考えられるからである。なお、別義（１）、別義（８）、別義（10）、別義（11）からは、下記のスキーマを抽出することができる（スキーマ③）。

スキーマ③：〈あるもの（の長さ）を長くする〉

２．２．２　複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明

以上、「のばす」について11つの多義的別義を認め、分析を行った。別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、本稿では籾山（近刊）が提案する「ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統合することができるモデル（総合モデル）」を援用して、「のばす」の多義構造（ネットワーク）について、以下のように提示する。

以下では、図１の「のばす」の多義構造の表記について、簡略に説明をする。

(a)　別義（１）はプロトタイプ的意味（意味拡張の起点）となる。

(b)　別義（１）と別義（２）（３）（４）はメトニミーの関係にあり、これらの意味は「ものの拡張」というフレーム内に位置付けることができる（フレーム①）。

(c)　別義（５）と別義（６）はメタファーの関係にあり、共通する意味として〈あるもの（の規模）を大きくする〉というスキーマ（ス

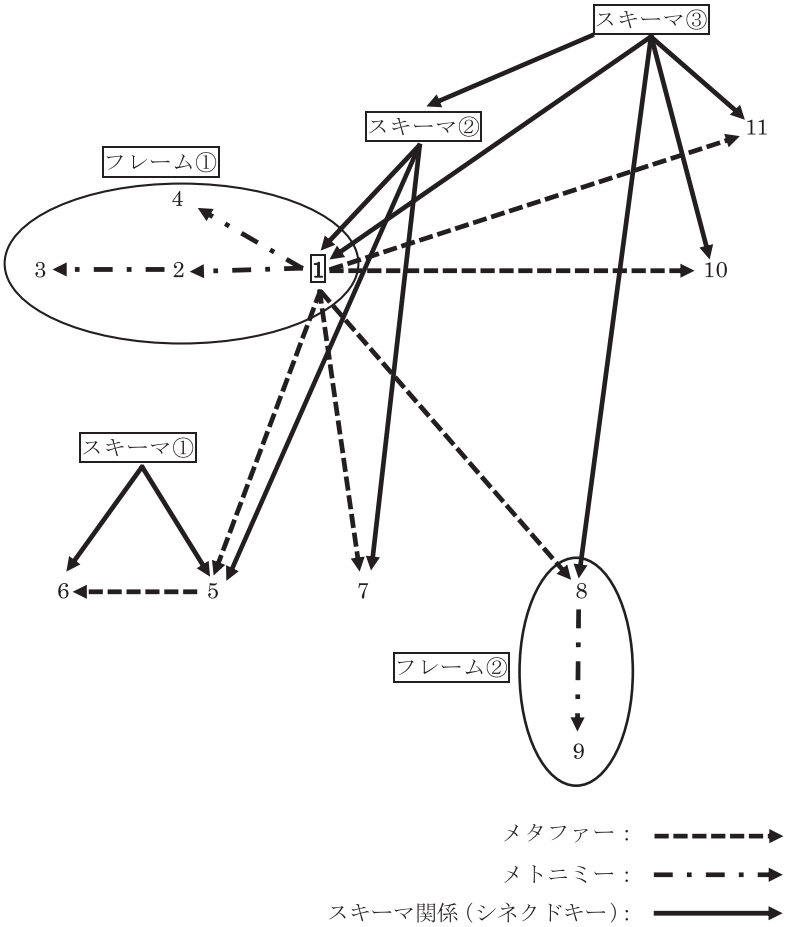

図１　「のばす」の多義構造

キーマ①）を抽出することができる。

(d)　別義（１）と別義（５）（７）はメタファーの関係にあり、共通する意味として〈ある具体物（の長さ）を長くする〉というスキーマ（スキーマ②）を抽出することができる。

(e)　別義（１）と別義（８）(10)（11）はメタファーの関係にあり、

共通する意味として〈あるもの（の長さ）を長くする〉というスキーマ（スキーマ③）を抽出することができる。なお、スキーマ②とスキーマ③はシネクドキーの関係にある。つまり、スキーマ③はスキーマ②より高次のスキーマであるということになる。

(f)　別義（8）と別義（9）はメトニミーの関係にあり、これらの意味は「時間の拡張」というフレーム内に位置付けることができる（フレーム②）。

3．日本語教育の観点からの考察ーコロケーションの提示と非共起例分析ー

以下では、以上の「のばす」の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「非共起例（誤用例）」も提示し、その理由・原因について検討する。

3．1　別義（1）：〈人が〉〈あるものを〉〈引っ張ったり継ぎ足したりして〉〈長くする〉

「コロケーション」

〈もの〉を：ゴム、（ゴム）バンド、紐、糸、釣り竿、アンテナ、ロープ、ホース、コード、チューブ、はしご、餅

〈手段・方法・道具〉で：自分、自力、様々な方法、機械、棒、指、両手、片手、特殊な手法

〈方向〉に（へ）：前、後ろ、上、下、上方、下方、上下、横、斜め

〈様態〉：しっかり、ゆっくり、思い切り、精一杯、一気に、ちゃんと、無理矢理、最大限（に）、少し

「非共起例」

(56)　*机を<u>伸ばす</u>。

(57)　机を<u>並べる</u>。

→（長さが）長くなることが想定できない（しにくい）場合は用いられない。

3．2　別義（2）：〈人が〉〈曲がったり縮んだりしていた〉〈もの・身体部分を〉〈まっすぐにする〉

「コロケーション」

〈もの〉を：針金、釘、書類のシワ、袖、アーム、ワイヤ

〈身体部分〉を：腰、シワ、パーマ、背筋、筋肉、首、腕、指、膝、手、足、両手、両足、体、身体、背中、ひじ

〈手段・方法・道具〉で：ひとり、自力、ドライヤー、アイロン、電磁力、特殊な方法、機械、棒、指先、両手

〈様態〉：まっすぐ（に）、ゆっくり、ちょっと、一気に、びしっと、ぴんと、徐々に、完全に、しっかり、きちんと、無理矢理

「非共起例」

（58）？耳を伸ばす。

（59）背中を伸ばす。

（60）聴力を伸ばす。（別義（6））

（61）？鉛筆を伸ばす。

（62）曲がった釘をまっすぐに伸ばす。

→まっすぐになることが想定できない（しにくい）場合は用いられない。

3．3　別義（3）：〈人が〉〈身体部分・道具を〉〈まっすぐにし〉〈ある対象に近づける〉

「コロケーション」

〈身体部分・道具〉を：手、箸、はしご、（クレーンの）アーム

〈位置・地点〉まで：3階、屋上、ベランダ、天井、上部、頂上、付近

〈様態〉：つい、ゆっくり、一気に、精一杯、簡単に、確実に

「非共起例」

（63）*画面に顔を伸ばす。

（64）画面に顔を近づける。

（65）　画面に手を伸ばす。

→「手」は「曲げる」「伸ばす」ということがあるが、「顔」についてはそのようなことは考えられない。

3．4　別義（4）：〈人が〉〈厚みのあるものを〉〈薄く広げる〉

「コロケーション」

〈もの〉を：絵の具、糊、塗料、粘土、（パンの）生地、小麦粉、肉、ワックス、クリーム、ファンデーション

〈手段・方法・道具〉で：手、両手、片手、手のひら、人差し指、指先、麺棒、機械、ローラー、水

〈様態〉：よく、しっかり、ちゃんと、きちんと、ゆっくり、もっと、一気に、一瞬で、すぐ（に）、簡単に、十分に

「非共起例」

（66）　糊を水で伸ばす。

（67）　*海水を水で伸ばす。

（68）　海水を水で薄める。

→基本的に、厚みのあるもの（塊状のもの）を薄く広げる場合に用いられる。

（69）　*岩を伸ばす。

（70）　岩を砕く。

→基本的に、溶かしたり柔らかくしたりして、薄く広げるものの場合に用いられる。

3．5　別義（5）：〈人が〉〈身体部分・植物（の一部）を〉〈成長に任せて〉〈長くしたり高くしたりする〉

「コロケーション」

〈身体部分〉を：身長、背、髪、爪、毛、髪の毛、ひげ、無精ひげ、まつ毛

〈植物（の一部）〉を：枝、芽、新芽、葉、枝葉、茎、花茎、つる、根
〈位置・地点〉まで：ここ、耳の下ぐらい、肩、屋根、ベランダのところ、天井付近
〈様態〉：しっかり、どんどん、徐々に、ぐんぐん、一気に、ちゃんと、まっすぐ、ずっと、簡単に、早く、綺麗に、丁寧に

「非共起例」

（71）　*サプリメントで子供を伸ばす。
（72）　サプリメントで子供の身長を伸ばす。

→基本的に、身体部分を成長させる場合に用いられる。

3．6　別義（6）：〈人や組織が〉〈能力・業績・記録などを〉〈高める・向上させる〉

「コロケーション」

〈組織〉が：政府、国、市、政党、銀行、新聞社、国連、WHO、会社、企業
〈能力・業績・記録〉を：売上、成績、需要、数、力、才能、学力、輸出、業績、消費、能力、勢力、量、記録、販売、生産、利益、収入、所得、得点、経済、実績、台数、事業、数字、税収、GDP、技術、シェア、スキル、実力
〈手段・方法〉で：自力、全力、独創的な方法、緻密な戦略、ユニークな手法、いろいろなやり方
〈時点・時期〉：一昨年より、2000年頃から、５年前から、従来より、前回より、同期に比べて、90年代後半から、後期より
〈場所〉で：海外、世界、国内、会社、市場、アジア、ヨーロッパ、日本、学校
〈様態〉：さらに、少し、もっと、ちょっと、どんどん、ぐんぐん、かなり、一気に、ずっと、確実に、年々、しっかり

「非共起例」

（73）　*損失を伸ばす。

（74）　利益を伸ばす［増やす］。

→好ましくない事柄の場合は使われにくい。

3．7　別義（7）:〈人や組織が〉〈道路・路線などの距離を〉〈長くする〉

「コロケーション」

〈組織〉が：政府、国、市、県、道路公団、JR 東海、西日本鉄道

〈道路・路線〉を：道、道路、線路、路線、鉄道、国道、高速道路、地下鉄、5 号線、新幹線

〈手段・方法〉で：先端技術、特殊な方法、新設計法、町の予算のみ、新工法

〈位置・場所〉まで：北部方面、知多半島、大月地区、南部地方、明治村、桜木町、中部地方、高野山付近、郊外

〈様態〉：さらに、しっかり、もっと、どんどん、一気に、できるだけ、確実に、ついに、何としてでも

「非共起例」

（75）　*川を伸ばす。

（76）　林道を伸ばす。

→道路や路線など、距離を長くすることのてきる対象物に対して用いられる。

3．8　別義（8）:〈人や組織が〉〈時間・期間などを〉〈長くする〉

「コロケーション」

〈組織〉が：議会、組織委員会、選挙管理委員会、日本医師会、道路公団、日本航空

〈時間・期間〉を：門限、返済期間、契約期間、保証期間、寿命、生存年数、稼働年数、定年、待ち時間、周期、滞在日程、任期

〈時期〉まで：12時、10月中旬、3 月末、年度末、5 年間、来年、最長10年、95歳

〈理由・原因〉で：台風の影響、会社の都合、経済的な理由、クライアントの事情、震災の関係、病気、政治的な理由、不景気、やむを得ない理由

〈様態〉：もっと、かなり、さらに、少し、徐々に、できるだけ、ずいぶん、やや、何とか、とりあえず

「非共起例」

（77）　*一日の時間を延ばす。

（78）　一日の労働時間を延ばす。

→一日24時間、一年365日などのように、すでに決まっている時間については用いられない。

3．9　別義（9）：〈人や組織が〉〈時間・日時などを〉〈遅らせる〉

「コロケーション」

〈組織〉が：会社、農協、東邦ガス、文科省、議会、組織委員会、選挙管理委員会、気象庁、金融庁、財務省、道路公団、日本航空

〈時間・日時〉を：出荷時期、支給時期、決済日、締切、結婚、結論、出発、開会、発送日、開始時刻、発売予定、入居時期、帰国

〈理由・原因〉で：渋滞、大雪、地震の影響、強風、台風、暖冬の影響、人身事故、故障が原因、やむを得ない事情、機体のトラブル

〈様態〉：だいぶ、かなり、ずるずる、どんどん、少し、やや、相当、さらに、多少、ずいぶん、予想以上に、５時間、１週間ほど

「非共起例」

（79）　*誕生日を延ばす。

（80）　誕生日パーティーを１週間延ばす。

→誕生日、結婚記念日などのように、すでに決まっている日時については用いられない。

3．10　別義（10）：〈人が〉〈相手を殴るなどして〉〈動けなくする〉

「コロケーション」

〈相手〉を：相手、対戦相手、敵、強盗、痴漢

〈様態〉：一発で、簡単に、あっけなく、あっさり、思い切り、あっという間に

「非共起例」

（81）　*テニスでライバルを伸ばした。

（82）　テニスでライバルを倒した。

→肉体的な打撃や衝撃などを相手に直接与える場合に用いられる。

3．11　別義（11）：〈（主に声楽・音響で）人が〉〈音・声を〉〈長くする〉

「コロケーション」

〈音・声〉を：音、声、低音、高音、効果音、ア列音

〈手段・方法・道具〉で：ボイストレーニング、ユニークな方法、同じ音程、ノンビブラート、ロングトーン

〈様態〉：しっかり、一気に、長く、思い切り、ちゃんと、きちんと、まっすぐ、目一杯、十分に

「非共起例」

（83）　*騒音を伸ばす。

（84）　騒音を立てる［出す］。

（85）　鍵盤の音を伸ばす。

→基本的に、声楽や音響の場合に用いられる。

4．まとめ

以上、本稿では「のばす」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにした。具体的には、多義語の分析において明らかにしなければならないこと、即ち、籾山（2001）が多義語分析の課題として提案している4つの課題のうち、「複数の意味の相互関係の明示」、「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」という2

つの課題について詳しく検討した。

まず、「のばす」について11の多義的別義を認定することができた。

次に、「複数の意味の相互関係の明示」つまり、別義間の関連性については、比喩の観点から考察を行い、別義間の関連性を明らかにすることができた。

また、「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」については、籾山（近刊）が提案する「統合モデル（ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統合することができるモデル）」を用いて、「のばす」の多義構造を提示した。

さらに、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「非共起例（誤用例）」も提示し、その理由・原因について分析した。

付記：本稿は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト『国立国語研究所基本動詞用法ハンドブック（http://verbhandbook.ninjal.ac.jp）』において、筆者が担当した「のばす」に修正・加筆したものである。

注

1　籾山（1994）は、同一の音形に複数の漢字表記が対応する場合について「１つの音に複数の漢字表記があり、漢字表記の違いが意味の違いに関与しない現象」を認めている。さらに、籾山（近刊）では意味と漢字表記の関係は、「同音異義語（例：くも（雲・蜘蛛））」「多義的別義と漢字表記が対応（例：さめる（冷める・覚める・褪める））」「ゆれ（例：カタイ（固い・硬い・堅い））」の３通りの場合が考えられると指摘している。さて、「のばす」には、「伸」「延」という２種類の漢字表記があるが、「のばす」の意味の違い（多義的別義）に厳密に対応しているとは言えない（つまり、ゆれがある）場合がある（例：飛距離を伸ばす／延ばす）。このような状況を踏まえ、本稿では漢字表記の相違にのみ依拠する区分は行わず、あくまでも意味の相違にのみ注目するという立場で、以下の分析を行う。

2　国広（1982：97）は、多義語について「『多義語（polysemic word)』とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」と定義している。本稿においてもこの定義に従う。

3　籾山（2001）は多義語分析の課題として、（1）（それぞれ確立した）複数の意味の認定、（2）プロトタイプ的意味の認定、（3）複数の意味の相互関係の明示、（4）複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明という4つの課題をあげている。なお、本稿では（3）と（4）の課題を中心に検討する。

4　「原因と結果の関係」と「手段と目的の関係」に基づくメトニミーは時間的な隣接性からさらに進んだものとして考えられている。

5　Lakoff（1987），Evans and Green（2006），Lewandowska-Tomaszczyk（2007），Geeraerts（2010），瀬戸（2007）などを参照されたい。

6　Langacker（1987）を参照されたい。

7　Fillmore（2003），Evans and Green（2006），Fillmore and Baker（2007），松本（2003）などを参照されたい。

8　籾山（2010：87）は、「フレーム」と「ベース」について「フレームとベースは重なり合う場合があります。つまり、ベースの中でも、社会的な営みを基盤とし、ある程度の複雑さを有するものはフレームでもあると考えられます。例えば、「裸眼」の意味について、「ものを見る際に、メガネをかけて見るか、メガネをかけないで見るか」というベースに基づくことを見ましたが、このベースはフレームと考えていいでしょう」と述べている。

9　本稿では、別義（1）を「のばす」のプロトタイプ的意味として考える。ただし、籾山（近刊）が「ある多義語のプロトタイプ的意味は1つとは限らない」と指摘しているように、「のばす」のプロトタイプ的意味の認定についてはさらに検討が必要である。これと関連して、木下（2019）は諸研究を踏まえて「多義語の複数の意味の中には、中心性を持つ語義とそうではない語義がある」とした上で、その中心性には「直観的プロトタイプ」と「意味拡張の起点」という二つの種類が認められると指摘している。なお、「直観的プロトタイプ」とは、「ある言語のある語の複数の意味の中で、母語話者（の大半）にとって、最も基本的な意味であると直観的に感じられる意味」（籾山（近刊））のことであり、「意味拡張の起点」とは、共時的な意味で「他の個別的意味の派生の基盤となるような、概念的に最も基本的な意味」（松本（2009：89–90））のことを言う。さらに、以上の二種の中心性は、多くの場合、同一の語義が担うと考えられて

いるが、両者にずれが生じる例もあることが指摘されている。この「のばす」について言えば、両者にずれが生じる例としても考えられる。つまり、ここでは「意味拡張の起点」という立場で別義（１）をプロトタイプ的意味として考えているが、「直観的プロトタイプ」という立場で考えた場合、（例えば）別義（５）もプロトタイプ的意味として考えられるということである。詳しい考察は今後の課題としたい。

参考文献

木下りか（2019）「多義動詞の意味拡張の起点と直観的プロトタイプ」『日本認知言語学会論文集』第19巻，pp.519-524，日本認知言語学会.

国広哲弥（1982）『意味論の方法』，大修館書店.

瀬戸賢一（2007）「メタファーと多義語の記述」楠見孝（編）『メタファー研究の最前線』，pp.31-61，ひつじ書房.

野村益寛（2013）「フレーム（frame）」辻幸夫（編）『新編　認知言語学キーワード事典』，p.317，研究社出版.

松村明（編）（2006）『大辞林』第３版，三省堂.

松本曜（2003）「第２章　語の意味」松本曜（編）『認知意味論』，pp.17-72，大修館書店.

松本曜（2009）「多義語における中心的意味とその典型性：概念的中心性と機能的中心性」，Sophia linguistica: working papers in linguistics. 57. pp.89-99.

籾山洋介（1994）「形容詞『カタイ』の多義構造」『名古屋大学日本語・日本文化論集』２，pp.65-90，名古屋大学留学生センター.

籾山洋介（2001）「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」『認知言語学論考』１，pp.29-58，ひつじ書房.

籾山洋介（2010）『認知言語学入門』，研究社出版.

籾山洋介（2017）「フレーム・現象素・メトニミーをめぐって」第166回，現代日本語学研究会ハンドアウト.

籾山洋介（近刊）『多義語の研究』.

籾山洋介・深田智（2003）「第３章　意味の拡張」松本曜編『認知意味論』（シリーズ認知言語学入門第３巻），pp.73-134，大修館書店.

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』，角川書店.

山田忠雄・柴田武他（編）（2012）『新明解国語辞典』第７版，三省堂.

Evans, V. and M. Green (2006) *Cognitive Linguistics: An Introduction*. Edinburgh: Edinburgh University Press.

Fillmore, C. J. (1977a) “The Case for Case Reopened.” In P. Cole and J. M. Sadock (eds.) *Syntax and Semantics 8: Grammatical Relations*. pp.59–81. NewYork/San Francisco/London: Academic Press.

Fillmore, C. J. (1977b) “Topics in Lexical Semantics.” In R. W. Cole (ed.) *Current Issues in Linguistic Theory*. pp.76–138. Bloomington, London: IndianaUniversity Press.

Fillmore, C. J. (1982) “Frame Semantics.” In The Linguistic Society of Korea (ed.) *Linguistics in the Morning Calm*. pp.111–138. Seoul: Hanshin Publishing.

Fillmore, C. J. (1985) “Frames and the Semantics of Understanding.” *Quaderni di Semantica* 6(2). pp.222–254.

Fillmore, C. J. (2003) “Topics in Lexical Semantics.” *Form and Meaning in Language*. pp.201–260. Stanford: CSLI Publications.

Fillmore, C. J. and C. Baker (2007) “A Frames Approach to Semantic Analysis.” In Heine, B. and H. Narrog (eds.) *The Oxford Handbook of Linguistic Analysis*. pp.313–339. Oxford: Oxford University Press.

Geeraerts, D. (2010) *Theories of Lexical Semantics*. Oxford: Oxford University Press.

Lakoff, G. (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago: The University of Chicago Press.（池上嘉彦・河上誓作他訳（1993）『認知意味論』，紀伊国屋書店.）

Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar* (Vol. 1). *Theoretical Prerequisites*. Stanford: Stanford University Press.

Lewandowska-Tomaszczyk, B. (2007) “Polysemy, Prototypes, and Radial Categoris.” In Geeraerts, D. and H. Cuyckens (eds.) *The Oxford Handbook of Cognitive Linguistics*. pp.139–169. Oxford: Oxford University Press.

例文出典（本稿で使用したコーパス及びツール）

※本稿における例文は、以下のコーパスを参考にして作った作例である。

（１）『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』（https://chunagon.ninjal.ac.jp/）

（２）『NINJAL-LWP for TWC（NLT）』（http://corpus.tsukuba.ac.jp/）

（３）『NINJAL-LWP for BCCWJ（NLB）』（http://nlb.ninjal.ac.jp/）

（い　てぐん・准教授）